

緑の校庭を 楽しみに



今年度の市の新規重点事業の1つである「校庭芝生化事業」のモデル校になっている桜ヶ丘小学校で、全校生徒とその保護者など800人が、芝生の植え付け作業を行いました。グラウンドの一部約1,500

平方メートルに、芝生の苗5,000株を50センチ間隔で碁盤目状に、約1時間かけて植えていきました。植えられた苗は柔らかくて成長が早い品種で、2カ月ほどで芝が一面に広がります。

あんな事、こんな事



豊かな自然を残すために

岐阜市の分収造林事業「たずさへの森」の調印式が、「ぎふ海づくりフェスタ」のふれあい交流行事のステージで行われました。この事業は、岐阜市が昭和57年から行っている森林保全整備事業で、これまで関市のほか郡上市や山県市で63.48ヘクタール、16万本の植樹を行っています。今回、下之保の6.4ヘクタールについての契約を締結しました。

ナイスショット！

(社)日本プロゴルフ協会主催のスナッグゴルフ講習会が全国で初めて田原小学校で開催され、4年生55人が挑戦しました。児童らはプロゴルファーの講師から、ルールやスイングなどを学び、グラウンドに用意された6つのコースを巡りました。また、この日は午後には安桜小学校でも講習会が開催され、6年生99人がスナッグゴルフを楽しみました。





あんしん号で地震教室

南ヶ丘保育園の年長園児 14人が市役所で、防災バス「あんしん号」を利用した地震教室に参加しました。園児らは車内を見学し、地震への備えを訴えるアニメを見たあと、防災バスや防災備蓄倉庫にある防災資機材の説明を受け、乾パンなどの非常食も試食しました。この教室は同園をはじめとして、市内29の保育園や幼稚園を対象に開催していきます。

初夏に漂う ササユリの香

道の駅平成の「ふれあいドーム」で「むぎササユリまつり」が開催され、武儀ササユリ保護育成会の会員が丹精を込めて育てた、白や淡いピンクの花を付けたササユリ約 100 株がドームの中に並びました。旧武儀町の花として指定され親しまれてきたササユリは、独特の香りと、うつむきかげんに可憐で美しく咲く姿が印象的。訪れた人々を癒していました。



命をつなぐため貴い寄付

6月5日、市役所にて、かねてより防災バス「あんしん号」の導入について助言をいただいていた、日野晃紹さん（関中央病院副院長）から、防災バスの装備充実のために、AED（自動体外除細動器）1台を寄付していただきました。尾藤市長は「貴重な寄付をいただき、誠にありがとうございます」とお礼を述べました。

地元の川を調べよう

小屋名の津保川で、川の生き物を調査する自然観察会が行われ、地元の子どもたちや保護者など約 100 人が参加しました。今回で6年目を迎えるこの観察会では、県博物館学芸員から魚のとり方について指導を受けたあと、子どもたちは網とかごを持って「ワンド」と呼ばれる川の淵に入り、足を上手に使いながら魚などを捕っていました。



こぼれ話



桜ヶ丘小学校の校庭の一部で行われた芝生の苗の植え付け作業。芝生化することで、子どもたちが伸び伸びと遊びや運動ができるほか、砂ぼこりや土の流出を防ぎ、近隣の住宅に迷惑をかけない効果があります。作業が終わって、校庭をぐるっと回っていると、「オリエンテーリングをやる人へ」と題し、説明と地図が書かれた手作りのベニヤ看板を発見。オリエンテーリング?どこで?と考えていると、校庭の隣の林地へ向かう

通路を見つけました。この林地は「いずみの森」と呼ばれており、校長先生の案内で中に入っていくと、ターザンロープやタイヤの遊具、丸太橋などがあり、昼休みなどに児童が喜んで遊んでいるとのこと。私は、児童が自由に自然の中へ入って遊べる空間が学校の隣にあることに驚き、さらにこの場所が公有地ではなく私有地であることに驚きました。地権者の理解と協力、学校や保護者の努力によって続いてきた「いずみの森」。児童からとても愛されている場所だそうです。